ベジフル SAGA （2024 年 10 月号）　～ 病害虫防除 ～

温州ミカンが本格的な収穫時期を迎えます。後述する病害虫等の基本対策を徹底し、高品質な果実の安定生産・供給に努めましょう。また、落葉果樹では来年度の病害虫の発生を防ぐための重要な時期になりますので、しっかり防除に取り組みましょう。

果樹全般

●果樹カメムシ類

８月 27 日に農業技術防除センターから注意報が発出され、８月末現在で既に一部園地で本虫の飛来が認められています。発生量や飛来時期は園によって異なりますので、こまめに園内を見回って本虫が認められた場合は直ちに薬剤による防除を行ってください。なお、発生状況については農業技術防除センターのホームページに掲載されていますので、参考にしてください（末尾の QR コード参照）。

また、近年はツヤアオカメムシの発生が多くなっています。ツヤアオカメムシは常緑樹の樹冠内で越冬するため、カンキツに飛来すると収穫まで長期にわたって加害する可能性があります。飛来・定着には特に注意しておきましょう。

露地カンキツ

●果実腐敗（緑かび病等）対策

樹上や地面にある腐敗果は重要な伝染源となるため、早急に取り除き、園外で適切に処分してください。

薬剤散布は、収穫７～10 日前にベンレート水和剤 4,000 倍（またはトップジンM水和剤 2,000 倍）とベフラン液剤 25　2,000 倍の混用散布またはベフトップジンフロアブル 1,500 倍を散布します。薬液を調整する際は、必ずベンレート水和剤（またはトップジンM水和剤）を先に溶かしてからベフラン液剤 25 を溶かしてください。逆の順番で溶かすと沈殿を生じます。また、散布の際は、ディスクノズル（新広角二頭口ノズル等）を使用し、果実１個１個を包み込むよう丁寧に散布してください。

果実腐敗を引き起こす病原菌は、主に傷口から感染するため、収穫の際は果実に傷をつけないよう丁寧に取り扱ってください。詳細については９月号の病害虫防除の項を参照ください。

●褐色腐敗病

本病が問題となる園では、台風の直前もしくは発生極初期に収穫前日まで使用できるランマンフロアブル 2,000 倍、レーバスフロアブル 2,000 倍、アリエッティ水和剤 400 倍のいずれかを散布します。ただし、アリエッティ水和剤は高温時に散布すると日焼け果の発生を助長する場合があるので、早朝の涼しい時間帯に散布するようにしてください。

●アザミウマ類

本虫は、夏季以降高温・乾燥が続くと多発生となりやすいです。園内の状況をよく観察し、被害が確認された場合は早急に薬剤防除を行ってください。着色期以降に問題となるのは主にハナアザミウマで、被害果は、はじめ果皮が白色かすり状に脱色し、その後褐変または腐敗します（図参照）。症状は、果実と果実が接している部分や果実と葉が接している部分で多くみられるため、このような部位を注意して観察します。

薬剤は、スピノエースフロアブル 4,000 倍（収穫 7 日前まで）、ハチハチフロアブル 2,000 倍（収穫前日まで）等を収穫前日数に注意して使用してください。

図　ハナアザミウマ類による被害果

●ミカンハダニ、ミカンサビダニ

ミカンハダニは、園内の発生状況をこまめに確認し、低密度時からの防除を心がけましょう。収穫が近い園では、収穫前使用日数に注意し薬剤を選択します。また、薬剤抵抗性の発達を避けるため、同系統の薬剤の使用は年 1 回とし、昨年使用した薬剤は使用しないでください。

ミカンサビダニの被害が認められた場合は、早急に防除を行ってください。ミカンハダニと合わせて、使用する薬剤を表にまとめましたので、参考にしてください。

表 ミカンハダニ、ミカンサビダニに対する薬剤の例

対象	IRACコード	薬剤名	希釈倍率	収穫前使用日数
ミカンハダニ	6	コロマイト水和剤	2,000倍	収穫７日前まで
	20B	カネマイトフロアブル	1,000倍	収穫７日前まで
	25A	スターマイトフロアブル	2,000倍	収穫７日前まで
	25B	ダニコングフロアブル	2,000倍	収穫前日まで
ミカンハダニ　＋ ミカンサビダニ	23	ダニゲッターフロアブル	2,000倍	収穫前日まで
	23	ダニエモンフロアブル	4,000倍	収穫７日前まで
	25B ＋ 21A	ダブルフェースフロアブル	2,000倍	収穫前日まで
	25A ＋ 21A	スターマイトプラスフロアブル	1,000倍	収穫７日前まで
	6 ＋ 10B	メビウスフロアブル	2,000倍	収穫14日前まで
ミカンサビダニ	19	ダニカット乳剤20	1,000倍	みかん 収穫14日前まで その他カンキツ 収穫60日前まで
	20D	マイトコーネフロアブル	1,000倍	収穫７日前まで
	21A	サンマイト水和剤	3,000倍	収穫３日前まで

●ウスカワマイマイ・チャコウラナメクジ

発生極初期はスラゴや IC ボルドー66D　100 倍（クレフノン 200 倍加用）で対応します。すでに樹上に発生している場合や果実の汚れが気になる場合は、マイキラーL 200 倍（収穫 30 日前まで）を使用します。ただし、IC ボルドーのように長期間の効果は期待できないため、注意してください。

不知火

●汚れ果症

10 月中旬まで防除が必要です。薬剤はジマンダイセン水和剤（またはペンコゼブ水和剤）600 倍の散布を基本とします。ただし、マンゼブを含む農薬の総使用回数は４回以内であること、収穫前使用日数が 90 日前までであることから、農薬の散布履歴や収穫前日数に注意してください。

ジマンダイセン等が使用できない場合は、ダイマジン 1,500 倍（収穫 14 日前まで）を使用します。ただし、本剤は収穫前の果実腐敗対策で使用するベフラン液剤 25 と同じ有効成分（総使用回数２回以内）を含むため、汚れ果症に対しては年１回の使用としてください。

ナシ

●黒星病

10～11 月は、翌年の発生源となる鱗片への感染を防ぐ重要な時期です。デランフロアブル 1,000 倍、キノンドーフロアブル 1,000 倍、オーソサイド水和剤 80 1,000 倍等を 10～15 日間隔で２～３回、ムラのないよう丁寧に散布してください。薬剤散布は、落葉直前まで（ナシの葉が２割以上残っている間）行います。

ブドウ

●べと病

近年、べと病の発生が多くなっており、本年も発生が多い園が散見されました。本病による早期落葉を防ぎ、翌年の伝染源を減らすためには、収穫後の防除が重要となります。収穫終了後に本病の対策をしていない園では、早急にアビオンＥ　1,000 倍を加用し、ボルドー液（ＩＣボルドー48Ｑ、66Ｄ）50 倍を散布してください。

●ブドウトラカミキリ

10 月上旬は、本虫の卵がふ化し、幼虫が枝に食入する時期です。モスピラン水溶剤 2,000 倍を散布し、幼虫の食入を防ぎましょう。この時期に散布できなかった場合や山間部等の発生が多い園では、落葉後の 11 月上旬までにトラサイドＡ乳剤　200 倍にプラテン 80　800 倍を加用して散布します。かけムラがないよう丁寧に散布してください。

モモ

●せん孔細菌病（モモ）、黒斑病（スモモ）

秋季の感染を防ぐため 10 月上旬まで薬剤を散布します。モモではＩＣボルドー66Ｄ50 倍もしくはＩＣボルドー412　30 倍、スモモではＩＣボルドー412　30 倍を散布します。特に台風等の強風雨によって感染が助長されるので、台風が予想される場合は、襲来前の防除を徹底してください。

病害虫発生状況等の最新の情報は、県農業技術防除センターＨＰに掲載されていますので、防除対策等にご活用ください。

※HP の QR コードはこちら